

令和4年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン令和4年(社会教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)図書館サービス推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口や電話での図書貸出やレファレンスに係るサービスの質の向上に努める。</li> <li>図書館行事や図書館利用、ホームページの利用者サービスについて、ホームページ・「図書館だより」等を活用した迅速な情報発信の促進に努める。</li> <li>配本や巡回をとおして、学校や幼稚園・保育園等の他団体、遠隔地区の利用者等との連携を図りながら、本に親しむ読書環境づくりの推進に努める。</li> <li>新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら、市民サービスの向上の観点から各種行事や事業を実施する。またボランティア団体等、他団体や地域との連携を強化し、市民参加による図書館運営を目指す。</li> <li>読書活動推進月間の取り組みについての広報を推進し、イベント開催や作品募集等をとおして読書活動推進月間の周知に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修を窓口対応等の接遇向上、レファレンスの質の向上に活かすことができた。オンライン研修を活用して、研修機会を増やすことができた。</li> <li>HP、図書館だより、防災無線等を活用し、情報提供を迅速に行った。WEB上で予約・貸出延長を行う機能を追加し、利便性の向上に寄与できた。</li> <li>今年度は保育園・幼稚園の巡回図書を再開できた。配本や巡回で、幼稚園・保育園や学校等の他団体、遠隔地区の利用者等への読書を楽しむ環境づくりに貢献できた。</li> <li>新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら、予定していた各種おはなし会等の行事をほぼ実施することができた。</li> <li>西九州新幹線開通も趣旨に含めて読書活動推進月間の行事や作品募集等の取り組みを行い、読書活動推進月間の周知にも繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修で学んだことを、職場内で広く情報共有できていない。</li> <li>ホームページや図書館だよりの内容を充実させ、図書館の事業内容の情報提供をしていきたい。</li> <li>巡回図書の読書環境の提供の大切さを感じたので、感染対策に努めながら保育園・幼稚園と連携し、継続していきたい。</li> <li>各種行事で感染状況によって感染防止対策と参加人数の調整を図ることが課題である。</li> <li>新型コロナウイルス対策を考慮しながら、読書活動推進月間の行事等の取り組みを定着させていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、研修で学んだことを職場内研修等の機会を設けて、情報共有していきたい。</li> <li>図書館の配本や巡回の取り組み、本の修理等についてもホームページや図書館だよりで情報提供していきたい。</li> <li>感染防止対策ガイドラインを参考にしながら、感染状況と参加人数を考慮しながら、行事での感染防止対策に努めたい。</li> <li>読書活動推進月間の取り組みは毎年試行錯誤しながら感染状況を配慮し行っており、その中で定着していく行事を模索していきたい。</li> </ul>
(2)文化財の保存・活用事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>国天然記念物「嬉野の大チャノキ」について、令和3年度の調査診断結果や現状を踏まえ、専門部会の意見を反映した業務に継続して取り組み、樹勢回復に繋げる。</li> <li>埋蔵文化財と開発行為の調整について、事業者との連携を密にし、埋蔵文化財の保存・保護に努める。千堂遺跡については、令和2年度の県道の改良工事に伴う発掘調査及び令和3年度の道路用地にあった農業用パイプの移設に伴う工事立会の調査成果の結果を報告書にまとめ、今後の活用の基礎資料とする。</li> <li>伝統的建造物群保存地区における今年度予定の家屋の保存修理及び現在建設中の公開活用施設について、適切に業務を実施し、文化的景観の保全と生活環境の向上及び塩田津の観光活用に繋げる。</li> <li>伝建地区内にある石造物を活用した展示会等を企画し、生涯学習等にも繋がられるように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度からの調査診断結果及び事業成果を基に、文化庁の調査官による現地指導も受ける等、中期的な樹勢回復事業に継続して取り組んだ。また専門部会も開催し、意見交換や情報共有を図ることができた。</li> <li>県道大木庭線道路整備事業に伴う千堂遺跡の発掘調査報告書を纏めることができた。(R5.2月報告書完成)</li> <li>塩田津公開活用施設がR4.11月に完成したことで、今後塩田津の来訪者に休憩の場、塩田津の歴史を伝える案内の場を提供することができる。</li> <li>家屋修理等3件について、計画的に事業を進めることができた。</li> <li>多久市郷土資料館との共催により、塩田町常在寺「四国八十八尊」展を企画することができた。(R5.5月中旬まで開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大チャノキの樹勢回復に関しては、中期的な取り組みが必要であり、施肥・消毒・剪定等の管理を適切に行う必要がある。</li> <li>塩田津公開活用施設について、今後市民と来訪者との交流を促進し、地域振興及び活性化を図る必要がある。</li> <li>家屋修理に関して、現地調査等による特定範囲の見直しによる工事内容の一部変更等がみられた。</li> <li>企画展について、毎年計画的に展示物の入替え等を行い、生涯学習等に繋げる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内関係課、地元、県茶業試験場、JA等との連携を強化し、樹勢回復に向けた中期的な方法について検討する。</li> <li>関係者との情報共有を図り、文化財保護や活用への理解の深化について具体的方法を作成し取り組む。</li> <li>伝建地区についての理解を深めるために具体的対応を作成し、啓蒙・啓発に努める。</li> <li>企画展について、毎年計画的に開催し生涯学習等に繋がられるよう努める。</li> </ul>
(3)文化の振興と環境づくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベント等活動を行い、さまざまなジャンルの演目を身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を行う。また地域における各世代間の交流を基に、嬉野ならではの伝統文化の継承を図る。</li> <li>コロナ禍で発表の機会が無くなった文化団体に、その成果を動画で撮影しネット配信することにより発表の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年より引き続き新型コロナウイルス感染対策をした上で、リパテイを拠点に音楽や子ども向け講演を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止するイベントもあった。子ども文化祭については、昨年無観客、映像放送だったが、今年は観客を入れての実施が出来た。</li> <li>伝統芸能団体が山口県や東京等のイベントで披露することがあり、全国的にも少しずつではあるが発表する機会が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年と比較して、全体的にはイベント等が開催しやすい雰囲気にはなってきたが、年末よりまたコロナが拡大傾向であり、予断を許さない状況になってきた。その時々で波があるので注視しながら、まずは安全確保のため随時状況を判断しながら開催しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの広報については、広い呼びかけが必要で、市のHP以外にも、回覧板でのチラシ等も使い、なるべく興味ある人の目に付くよう配慮した。その他SNSを利用できないかを検討する。</li> </ul>
(4)次世代を担う青少年の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての育成事業を展開し、青少年の豊かな人間性を育む。また子ども同士の交流を深める。</li> <li>放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地引網体験」「演劇鑑賞会」などを実施し、たくさんの方に参加鑑賞していただき、実体験を経験させることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策としては、屋外のイベントを増やすことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況を把握しながら多くの事業を実施する。</li> <li>高齢者にも参加してもらい、子どもたちとの交流を図ってもらう。</li> </ul>
(5)生涯学習のまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会を提供し、誰もが参加できる生涯学習へのきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。</li> <li>コロナ禍だが学習機会を増やすため、テレビ放送などで研修等に対応する。</li> <li>市民の意見を聞き、多くの方が参加したくなるような新たな講座の内容を提供する。</li> <li>公民館教室など実施内容を市報などで広報する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年引き続き、高齢者教室の一般教養講座はすべてテレビ放映となったため、個々に視聴してもらった。</li> <li>新たな講座の内容を実施し、多くの参加者があった。またサークル活動も継続して行われており、各公民館で継続的に実施されている。</li> <li>出前講座については、対象者が高齢者が多いということで、コロナ対策により数件しかなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養講座はテレビ放映のため視聴者の反応が見られなかった。また、多少講師がマンネリ化しており、引き付けるような講師の選定が必要と思われる。</li> <li>サークル活動継続で、高齢のためなど活動が難しくなるという相談があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者教室の一般教養講座は、来年もテレビ放映が決定している。多くの方に視聴してもらうよう内容を検討する。人気のある講座など研究し、広く市民に広報する必要がある。</li> </ul>
(6)スポーツのまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種大会や体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。</li> <li>働く世代や中高年者に向けて、一人でも空いた時間にできる運動を紹介し、自身の健康づくりに対する意識を高めてもらう。</li> <li>家族や親子で楽しめるレクリエーションスポーツイベントを開催し、スポーツを通じて心身のリフレッシュを図る。</li> <li>スポーツイベントの内容を充実させ、スポーツをするだけではなく、見ても楽しめるような機会を作ることでスポーツの関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミズノとの連携協定があり。その協力で一般向けの教室を実施したが「美ボデイ教室」では女性(母子等)の参加者もあり好評であった。</li> <li>今年バスケットのバルーナーズとも連携協定結んだことで、小中学校で教室を開いてもらい、プロの選手との交流が出来た。また、バルーナーズの計らいで、試合の無料観戦も実施でき、バスケットの面白さを子どもたちに提供できた。</li> <li>サガン鳥栖の嬉野デイでは少年サッカー部やその保護者などに観戦してもらい喜んでもらった。また、同時に嬉野市のPRもできた。</li> <li>ソフトバンクホークスの本多コーチに来てもらい、小中学校の野球部・クラブに技術指導をしてもらい、参加者の技術向上に役立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ教室は、土曜日や夜の教室を行ったが、まだ参加者が少ない。</li> <li>今回バルーナーズの観戦イベントでは、短期間であったため参加者募集の件で小中学校に協力をお願いした。より広い年齢層の方に参加いただくよう配慮が必要。</li> <li>イベント事業については市民がスポーツに関心を持ってもらうことが重要であり、あわせて嬉野市のPRをしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ教室については、広い年齢層の市民に参加したいと思うイベントを企画する。また、日時、時間帯など参加しやすい環境をつくる。また、引き続きコロナ対策は必要である。</li> <li>イベント事業については、観光、福祉など他部署との連携を図りながら実施し、スポーツイベントを通じて嬉野市の魅力を発信する。</li> </ul>

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、利用者の立場をよく考えての企画や取り組み・イベントなどがなされていると評価する。</li> <li>図書館サービス推進事業については、本(文字・文章や絵)に接し、読む機会・場づくりによく努力されている。保幼小連携の観点からも、保育園・幼稚園への巡回図書については、コロナ感染予防対策に努めながらの継続が望まれる。</li> <li>生涯学習まちづくり事業の改善点に、「一般教養講座でのテレビ放映」があげられているが、視聴者の反応、講座や放映内容の広報等について、教育委員会と市長部局、外部機関などとの連携した対応が必要ではないかと考える。</li> <li>スポーツのまちづくり推進事業については、2024国民スポーツ大会を契機に、県・市関係部局・外部機関との連携・協力のもと、さらなる充実・発展へつなげると期待している。</li> </ul>	A

指摘を受けての改善点
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園・幼稚園への巡回図書については、コロナ感染予防に努めながら、より多くの本に触れていただけるように今後も継続して事業を推進していきたい。</li> <li>本来は高齢者向けに会場における講演方式で行っていた「かがやき大学」は、コロナの影響により令和2年度よりテレビ放送の形をとっています。令和5年度においても老人連合会との打ち合わせで同様の方式で行う予定になっております。その内容については防犯から健康づくりなどの対象者の身の回りの情報など、多岐に渡るよう工夫をしています。現在は市長部局である文化・スポーツ振興課のみで企画していますが、その他関係部署との情報共有し、その時々合った、興味を持っていただけの内容にしていきたいと思っています。</li> <li>スポーツのまちづくり推進事業において、現在はサガン鳥栖のうれしのデイなど、プロスポーツ選手との交流により、子どもから大人までスポーツに親しんでもらうような事業を行っています。今年度は、来年度B2からB11に上がる勢いのある、プロバスケットのバルーナーズとも連携協定を結び、中学生のバスケットボール部などに技術指導をしていただきました。</li> <li>国スポにつきましては、令和4年度からできました2024推進課が主導で行っていただきますが、特に本市で行われます全障スポの競技ポッチャはどの年齢層の方にも簡単にプレイできるものなので、2024推進課や体協、コミュニティなどと連携して市民の方に親しんでもらうなど、その他色々なスポーツも含めて盛り上げていきたいと思っています。</li> </ul>

評価4段階	A	達成(80%以上)
	B	ほぼ達成(51~79%)
	C	やや不十分(50~21%)
	D	不十分(20%以下)